

「カードを使ってコミュニケーションをしましょう」という訳で、どこの支援現場でも、絵や写真のカードが壁やホワイトボードに掲示されているのを見かけるようになりました。出勤職員の情報を伝えるボード、一日の日課の進行を伝えるボードなどの使用は、もうどこの支援現場でも常識的な支援だと言っていいでしょう。とてもありがたいことです。その一つ一つは、とてもちっぽけな実践ですが、それを弛まなく続けることが、多くの自閉症の方々、果ては重度の知的障害がある方々の穏やかな生活を下支えることになるはずです。彼らの心的なエネルギーが、いたずらに「見通しの立たない生活への対処」のために浪費されることなく、自らの人生をエンパワメントするために活用されることができれば、幸福への切符を手に入れることができますから。

さて、この絵カード、写真カードですが、「リンゴ」や「みかん」、「旅行」や仕事」などを表現するときには、無類の強さを発揮しますが、ひとたび、「寂しさ」や「悲しさ」などの感情表現\*や「愛情」や「平和」などの抽象的な概念\*を伝えようとすると、四苦八苦ですよね。今回はそんな話です。

#### 【エピソード1】

A子さんが3月に担任の職員が辞めたことで、大荒れである。大好きな男性職員だった。新しい担任職員の支援を「うるさいんだ」などと罵声をあげながら拒否している。傍目には、それが、本当は甘えたいのに甘えられない、あまのじゃくな態度であることは明白なのだが、一向に収まる気配がない。もちろん口頭で、辞めた理由、A子さんのことは、決して忘れないという元担任の思いなどは、繰

り返し話されているのだが…。そこで「二人は、いつまでも仲良しである」を伝えるために、二人が仲良く並んで立っている写真を、今までに撮影してあった写真から合成して作り、彼女の居室の入口に張ったのだ。

見事に作戦成功だった。「ずっと仲良し」は聴覚的理解ではA子さんには困難だったのである。「仲良し」でさえも視覚的提示物を用いて構造化！これがこのエピソードの教訓である。

#### 【エピソード2】

B子さんが初めてハイキングの行事に参加することを拒否した。カードでの選択である。参加しないでのんびりしようというのである。ところがその日から彼女の夜間の断眠が始まるのである。「安心してのんびりしてて良いんだよ」「参加しないと教えることができたことがすばらしいことなんだよ」と何回となく伝えるが、状況は変わらない。その日はその支援で眠ることができても、もう次の日は、断眠なのである。

そこで、B子さんが居室で「のんびり」している姿を、写真に収め、それを居室に掲示して、その写真の回りに、彼女ののんびり姿の写真を囲むようにして、職員全員の写真を張ったのだ。もちろん職員の顔は、ニコニコしているものである。さらに、「のんびり」の写真には、○がつけてあり、全職員が「のんびり」を認め、肯定していることを伝えたのだった。

その後、彼女は熟睡である。「のんびり」でさえも、視覚的に伝えないと、安心できないことを教えたエピソードだった。

【参考】\*感情表現や抽象概念などを絵カードで伝えるためのさまざまなシンボルピクチャーが工夫され、活用されています。インターネット上で参照できます。